

第1次池田内閣

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

第1次池田内閣(だいいちじいけだないかく)は、池田勇人が第58代内閣総理大臣に任命され、1960年(昭和35年)7月19日から同年12月8日まで続いた日本の内閣である。

閣僚

- 内閣総理大臣 - 池田勇人
- 法務大臣 - 小島徹三
- 外務大臣 - 小坂善太郎
- 大蔵大臣 - 水田三喜男
- 文部大臣、科学技術庁長官 - 荒木万寿夫
- 厚生大臣 - 中山マサ
- 農林大臣 - 南条徳男
- 通商産業大臣 - 石井光次郎
- 運輸大臣 - 南好雄
- 郵政大臣 - 鈴木善幸
- 労働大臣 - 石田博英
- 建設大臣、首都圏整備委員会委員長 - 橋本登美三郎
- 自治大臣、国家公安委員会委員長 - 山崎巖 / 周東英雄(1960年10月13日 -)
- 行政管理庁長官 - 高橋進太郎
- 北海道開発庁長官 - 西川甚五郎
- 防衛庁長官 - 江崎真澄
- 経済企画庁長官 - 迫水久常(参議院議員)
- 内閣官房長官 - 大平正芳
- 総理府総務長官 - 藤枝泉介
 - 内閣法制局長官 - 林修三
 - 内閣官房副長官(政務) - 佐々木盛夫(1960年7月22日 -)
 - 内閣官房副長官(政務) - 小川平二(1960年7月22日 -)
 - 総理府総務副長官 - 佐藤朝生

第1次池田内閣



内閣総理大臣	第58代 池田勇人
成立年月日	1960年(昭和35年)7月19日
終了年月日	同年12月8日
与党・支持基盤	自由民主党
施行した選挙	第29回衆議院議員総選挙
衆議院解散	1960年(昭和35年)10月24日 安保解散

内閣閣僚名簿(首相官邸)

(<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/58.html>)

政務次官

1960年7月22日任命。

- 法務政務次官 - 村瀬宣親
- 外務政務次官 - 勝俣稔
- 大蔵政務次官 - 簡牛凡夫、秋山利恭
- 文部政務次官 - 大坪保雄
- 厚生政務次官 - 田中正巳
- 農林政務次官 - 田口長治郎、宇田国栄
- 通商産業政務次官 - 木村守江、岡本茂
- 運輸政務次官 - 山田弥一

- 郵政政務次官 - 丹羽兵助
- 労働政務次官 - 岡崎英城
- 建設政務次官 - 三和精一
- 自治政務次官 - 吉田重延
- 行政管理政務次官 - 松沢雄蔵
- 北海道開発政務次官 - 仲原善一
- 防衛政務次官 - 塩見俊二
- 経済企画政務次官 - 後藤義隆
- 科学技術政務次官 - 大谷藤之助

外部リンク

- 首相官邸 - 第1次池田内閣 (<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/58.html>)

「<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第1次池田内閣&oldid=43943315>」から取得
カテゴリ: 昭和時代戦後の内閣 | 日本の歴代内閣 | 1960年の日本

-
- 最終更新 2012年8月27日 (月) 15:13 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
 - テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。

第2次池田内閣

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

第2次池田内閣(だいにじいけだないかく)は、池田勇人が第59代内閣総理大臣に任命され、1960年(昭和35年)12月8日から1961年(昭和36年)7月18日まで続いた日本の内閣である。

閣僚

- 内閣総理大臣 - 池田勇人(池田派)
- 法務大臣 - 植木庚子郎(佐藤派)
- 外務大臣 - 小坂善太郎(池田派)
- 大蔵大臣 - 水田三喜男(大野派)
- 文部大臣 - 荒木万寿夫(池田派)
- 厚生大臣 - 古井喜実(三木・松村派)
- 農林大臣 - 周東英雄(池田派)
- 通商産業大臣 - 椎名悦三郎(旧岸派)
- 運輸大臣 - 木暮武太夫(参議院議員)
- 郵政大臣 - 小金義照(池田派)
- 労働大臣 - 石田博英(石橋派)
- 建設大臣、首都圏整備委員会委員長 - 中村梅吉(河野派)
- 自治大臣、国家公安委員会委員長 - 安井謙(参議院議員)
- 行政管理庁長官、北海道開発庁長官 - 小沢佐重喜(佐藤派)
- 防衛庁長官 - 西村直己(佐藤派)
- 経済企画庁長官 - 迫水久常(参議院議員)
- 科学技術庁長官 - 池田正之輔(旧岸派)
- 内閣官房長官 - 大平正芳(池田派)
- 総理府総務長官 - 藤枝泉介(大野派)
 - 内閣法制局長官 - 林修三
 - 内閣官房副長官(政務) - 保岡武久(1960年12月9日 -)
 - 内閣官房副長官(事務) - 細谷喜一(1960年12月9日 -)
 - 総理府総務副長官 - 佐藤朝生

第2次池田内閣

内閣総理大臣	第59代 池田勇人
成立年月日	1960年(昭和35年)12月8日
終了年月日	1961年(昭和36年)7月18日

政務次官

- 法務政務次官 - 吉川文吉
- 外務政務次官 - 津島文治
- 大蔵政務次官 - 大久保武雄、田中茂穂
- 文部政務次官 - 瀨瀨弥三
- 厚生政務次官 - 安藤覚
- 農林政務次官 - 八田貞義、井原岸高
- 通商産業政務次官 - 始関伊平、砂原格
- 運輸政務次官 - 福家俊一
- 郵政政務次官 - 森山欽司
- 労働政務次官 - 安倍清美
- 建設政務次官 - 田村元
- 自治政務次官 - 渡海元三郎
- 行政管理政務次官 - 西田信一
- 北海道開発政務次官 - 林田正治

- 防衛政務次官 - 白浜仁吉
- 経済企画政務次官 - 江藤智
- 科学技術政務次官 - 松本一郎

外部リンク

- 首相官邸 - 第2次池田内閣 (<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/59.html>)

「<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第2次池田内閣&oldid=43735438>」から取得
カテゴリ: 昭和時代戦後の内閣 | 日本の歴代内閣 | 1960年の日本 | 1961年の日本

- 最終更新 2012年8月12日 (日) 21:01 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
- テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。

第2次池田内閣 (第1次改造)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

第2次池田第1次改造内閣(だいにじいけただだいいちじかいぞうないかく)は、池田勇人が第59代内閣総理大臣に任命され、1961年(昭和36年)7月18日から1962年(昭和37年)7月18日まで続いた日本の内閣である。

前の第2次池田内閣の改造内閣である。

閣僚

- 内閣総理大臣 - 池田勇人(池田派)
- 法務大臣 - 植木庚子郎(佐藤派)
- 外務大臣 - 小坂善太郎(池田派)
- 大蔵大臣 - 水田三喜男(大野派)
- 文部大臣 - 荒木万寿夫(池田派)
- 厚生大臣 - 灘尾弘吉(石井派)
- 農林大臣 - 河野一郎(河野派)
- 通商産業大臣 - 佐藤栄作(佐藤派)
- 運輸大臣 - 齋藤昇(参議院議員)
- 郵政大臣 - 迫水久常(参議院議員)
- 労働大臣 - 福永健司(池田派)
- 建設大臣、首都圏整備委員会委員長 - 中村梅吉(河野派)
- 自治大臣、国家公安委員会委員長 - 安井謙(参議院議員)
- 行政管理庁長官、北海道開発庁長官 - 川島正次郎(旧岸派、川島派)
- 防衛庁長官 - 藤枝泉介(川島派)
- 経済企画庁長官 - 藤山愛一郎(藤山派、-1962年7月5日) / 池田勇人(事務取扱)(1962年7月6日-)
- 科学技術庁長官 - 三木武夫(三木・松村派)
- 内閣官房長官 - 大平正芳(池田派)
- 総理府総務長官 - 小平久雄(池田派)
 - 内閣法制局長官 - 林修三
 - 内閣官房副長官(政務) - 服部安司(1961年7月25日-)
 - 内閣官房副長官(事務) - 細谷喜一
 - 総理府総務副長官 - 佐藤朝生(-1962年5月7日) / 古屋亨(1962年5月8日-)

第2次池田第1次改造内閣

内閣総理大臣	第59代 池田勇人
成立年月日	1961年(昭和36年)7月18日
終了年月日	1962年(昭和37年)7月18日
与党・支持基盤	自由民主党
施行した選挙	第6回参議院議員通常選挙

内閣閣僚名簿(首相官邸)

(<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/59-1.html>)

政務次官

- 法務政務次官 - 尾関義一
- 外務政務次官 - 川村善八郎
- 大蔵政務次官 - 天野公義、堀本宣美
- 文部政務次官 - 長谷川峻
- 厚生政務次官 - 森田重次郎
- 農林政務次官 - 中馬辰猪、中野文門
- 通商産業政務次官 - 森清、大川光三
- 運輸政務次官 - 有馬英治
- 郵政政務次官 - 大高康
- 労働政務次官 - 加藤武徳
- 建設政務次官 - 山口六郎次

- 自治政務次官 - 大上司
- 行政管理政務次官 - 岡崎英城
- 北海道開発政務次官 - 田中正巳
- 防衛政務次官 - 笹本一雄
- 経済企画政務次官 - 菅太郎
- 科学技術政務次官 - 山本利寿

外部リンク

- 首相官邸 - 第2次池田内閣第1次改造内閣 (<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/59-1.html>)

「[http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第2次池田内閣_\(第1次改造\)&oldid=42985472](http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第2次池田内閣_(第1次改造)&oldid=42985472)」から取得
カテゴリ: 昭和時代戦後の内閣 | 日本の歴代内閣 | 1961年の日本 | 1962年の日本

-
- 最終更新 2012年6月18日 (月) 16:58 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
 - テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。

第2次池田内閣 (第2次改造)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

第2次池田第2次改造内閣(だいにじいけだだいにじかいぞうないかく)は、池田勇人が第59代内閣総理大臣に任命され、1962年(昭和37年)7月18日から1963年(昭和38年)7月18日まで続いた日本の内閣である。

前の第2次池田第1次改造内閣の改造内閣である。

第2次池田第2次改造内閣

内閣総理大臣	第59代 池田勇人
成立年月日	1962年(昭和37年)7月18日
終了年月日	1963年(昭和38年)7月18日

目次

- 1 概要
- 2 閣僚
- 3 政務次官
- 4 外部リンク

概要

1962年(昭和37年)7月14日に行われた自由民主党総裁公選は、現職の池田勇人首相一人が立候補し、事実上、池田総裁の信任投票となった。池田は391票を獲得し再選したものの、無効票などを合わせると135票もの批判票が出て、内閣改造、自民党役員改選に影響を及ぼすこととなった。

前の第2次池田内閣第1次改造内閣と比較すると、改造前は党内実力者を網羅したものであったのが、佐藤栄作、三木武夫、藤山愛一郎が閣外に去り、河野一郎が残留した。また、内閣官房長官の黒金泰美は河野に傾斜し、佐藤と河野の権力闘争が激しくなっていった。

それ以上に重要なことは、外務大臣の大平正芳と大蔵大臣の田中角栄が外交と財政を掌握し、若手実力者として台頭する契機を作ったことである。

閣僚

- 内閣総理大臣 - 池田勇人(池田派)
- 法務大臣 - 中垣國男(石井派)
- 外務大臣 - 大平正芳(池田派)
- 大蔵大臣 - 田中角栄(佐藤派)
- 文部大臣 - 荒木万寿夫(池田派)
- 厚生大臣 - 西村英一(佐藤派)
- 農林大臣 - 重政誠之(河野派)
- 通商産業大臣 - 福田一(大野派)
- 運輸大臣 - 綾部健太郎(藤山派)
- 郵政大臣 - 手島栄(参議院議員) / 小沢久太郎(1963年1月8日-)
- 労働大臣 - 大橋武夫(池田派)
- 建設大臣 - 河野一郎(河野派)
- 首都圏整備委員会委員長 - 川島正次郎(川島派、兼務) / 河野一郎(兼務、1962年11月2日-)
- 近畿圏整備長官(1963年7月10日設置) - 河野一郎(兼務、河野派)
- 自治大臣、国家公安委員会委員長 - 篠田弘作(石井派)
- 行政管理庁長官、北海道開発庁長官 - 川島正次郎(旧岸派、川島派)

- 防衛庁長官 - 志賀健次郎(三木派)
- 経済企画庁長官 - 宮澤喜一(参議院議員、池田派)
- 科学技術庁長官 - 近藤鶴代(参議院議員、大野派)
- 内閣官房長官 - 黒金泰美(池田派)
- 総理府総務長官 - 徳安實藏(大野派)
 - 内閣法制局長官 - 林修三
 - 内閣官房副長官(政務) - 八田貞義(1962年7月27日 -)
 - 内閣官房副長官(事務) - 細谷喜一
 - 総理府総務副長官 - 古屋亨

政務次官

- 法務政務次官 - 野本品吉
- 外務政務次官 - 飯塚定輔
- 大蔵政務次官 - 原田憲、池田清志
- 文部政務次官 - 田中啓一
- 厚生政務次官 - 渡海元三郎
- 農林政務次官 - 津島文治、大谷贊雄
- 通商産業政務次官 - 広瀬正雄、上林忠次
- 運輸政務次官 - 大石武一
- 郵政政務次官 - 保岡武久
- 労働政務次官 - 田村元
- 建設政務次官 - 松沢雄蔵
- 自治政務次官 - 藤田義光
- 行政管理政務次官 - 宇田国栄
- 北海道開発政務次官 - 小西英雄
- 防衛政務次官 - 生田宏一
- 経済企画政務次官 - 館林三喜男
- 科学技術政務次官 - 内田常雄

なお、内閣改造に伴い、自民党役員改選が行われた。

- 副総裁 - 大野伴睦(大野派)
- 幹事長 - 前尾繁三郎(池田派)
- 総務会長 - 赤城宗徳(川島派)
- 政務調査会長 - 賀屋興宣(旧岸派)

外部リンク

- 首相官邸 - 第2次池田内閣第2次改造内閣 (<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/59-2.html>)

「[http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第2次池田内閣_\(第2次改造\)&oldid=42985474](http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第2次池田内閣_(第2次改造)&oldid=42985474)」から取得
カテゴリ: 昭和時代戦後の内閣 | 日本の歴代内閣 | 1962年の日本 | 1963年の日本

-
- 最終更新 2012年6月18日 (月) 16:59 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
 - テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。

第2次池田内閣 (第3次改造)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

第2次池田第3次改造内閣(だいにじいけだだいさんじかいぞうないかく)は、池田勇人が第59代内閣総理大臣に任命され、1963年(昭和38年)7月18日から同年12月9日まで続いた日本の内閣である。

前の第2次池田第2次改造内閣の改造内閣である。

目次

- 1 概要
- 2 閣僚
- 3 政務次官
- 4 自由民主党三役
- 5 参考文献
- 6 外部リンク

第2次池田第3次改造内閣

内閣総理大臣	第59代 池田勇人
成立年月日	1963年(昭和38年)7月18日
終了年月日	同年12月9日
与党・支持基盤	自由民主党
施行した選挙	第30回衆議院議員総選挙
衆議院解散	1963年(昭和38年)10月23日
	所得倍増解散
	内閣閣僚名簿(首相官邸)
	(http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/59-3.html)

概要

この内閣の下で、1963年10月23日に衆議院解散が執行され、それによる第30回衆議院議員総選挙が11月21日に施行された。

また、この解散総選挙期間中の11月9日に国鉄横須賀線鶴見事故と三井三池三川炭鉱炭塵爆発事故の二大事故が発生し、“血塗られた土曜日”と後に言われる出来事となった。

総選挙投票日直後の11月23日にはアメリカ合衆国大統領のジョン・フィッツジェラルド・ケネディが暗殺される事件が発生し、内閣総理大臣:池田勇人がジョン・フィッツジェラルド・ケネディの国葬参列のために訪米している。

閣僚

- 内閣総理大臣 - 池田勇人(池田派)
- 法務大臣 - 賀屋興宣(旧岸派)
- 外務大臣 - 大平正芳(池田派)
- 大蔵大臣 - 田中角栄(佐藤派)
- 文部大臣 - 灘尾弘吉(石井派)
- 厚生大臣 - 小林武治(参議院議員)
- 農林大臣 - 赤城宗徳(川島派)
- 通商産業大臣 - 福田一(大野派)
- 運輸大臣 - 綾部健太郎(藤山派)
- 郵政大臣 - 古池信三(参議院議員)
- 労働大臣 - 大橋武夫(池田派)
- 建設大臣、近畿圏整備長官、首都圏整備委員会委員長 - 河野一郎(河野派)
- 自治大臣、国家公安委員会委員長 - 早川崇(三木派)
- 行政管理庁長官 - 山村新治郎(河野派)
- 北海道開発庁長官、科学技術庁長官 - 佐藤栄作(佐藤派)

- 防衛庁長官 - 福田篤泰(大野派)
- 経済企画庁長官 - 宮澤喜一(参議院議員、池田派)
- 内閣官房長官 - 黒金泰美(池田派)
- 総理府総務長官 - 野田武夫(河野派)
 - 内閣法制局長官 - 林修三
 - 内閣官房副長官(政務) - 草野一郎平(1963年7月30日一)
 - 内閣官房副長官(事務) - 細谷喜一
 - 総理府総務副長官 - 古屋亨

政務次官

第2次池田内閣第2次改造内閣の政務次官が1963年7月30日に退任し、同日付で新たな政務次官を任命した。

- 法務政務次官 - 天竺良吉
- 外務政務次官 - 伊藤五郎
- 大蔵政務次官 - 瀨瀨弥三・斎藤邦吉
- 文部政務次官 - 八木徹雄
- 厚生政務次官 - 砂原格
- 農林政務次官 - 松野孝一・丹羽兵助
- 通商産業政務次官 - 田中栄一・林博
- 運輸政務次官 - 田辺国男
- 郵政政務次官 - 金丸信
- 労働政務次官 - 蔵内修治
- 建設政務次官 - 鴨田宗一
- 自治政務次官 - 金子岩三
- 行政管理政務次官 - 川上為治
- 北海道開発政務次官 - 井川伊平
- 防衛政務次官 - 井原岸高
- 経済企画政務次官 - 倉成正
- 科学技術政務次官 - 鹿島俊雄

自由民主党三役

なお、内閣改造に伴い、自民党役員改選が行われた。

- 副総裁 - 大野伴睦(大野派)
- 幹事長 - 前尾繁三郎(池田派)
- 総務会長 - 藤山愛一郎(藤山派)
- 政務調査会長 - 三木武夫(三木派)

参考文献

- 秦郁彦編『日本官僚制総合事典:1868 - 2000』東京大学出版会、2001年。

外部リンク

- 首相官邸 - 第2次池田内閣第3次改造内閣 (<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/59-3.html>)



この「第2次池田内閣 (第3次改造)」は、政治分野に属する書きかけ項目です。この記事を加筆・訂正 (<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=>

第3次池田内閣 (改造)

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
(第3次池田改造内閣から転送)

第3次池田改造内閣(だいさんじいけだかいぞうないかく)は、池田勇人が第60代内閣総理大臣に任命され、1964年(昭和39年)7月18日から同年11月9日まで続いた日本の内閣である。

前の第3次池田内閣の改造内閣である。

第3次池田改造内閣

内閣総理大臣	第60代 池田勇人
成立年月日	1964年(昭和39年)7月18日
終了年月日	同年11月9日

目次

- 1 トピックス
- 2 閣僚
- 3 政務次官
- 4 外部リンク

トピックス

1964年7月10日に自由民主党総裁選挙が施行され、池田勇人が佐藤栄作を破って総裁三選を果たしたことを受けて行われた内閣改造である。

第3次池田改造内閣時代のトピックスとしては、

- 9月7日に国際通貨基金・世界銀行合同総会が、アジアで初めて日本(東京)で開催された。
- 9月30日、義宮正仁親王と津軽華子との結婚の儀が執り行われ、常陸宮家が創立された。
- 10月10日から10月24日まで東京オリンピックが開催された。

ことが挙げられる。

そして東京オリンピックが閉幕した翌日の10月25日に内閣総理大臣の池田勇人が闘病生活に入ることを理由として退陣を表明することとなった。

閣僚

- 内閣総理大臣 - 池田勇人(池田派)
- 法務大臣 - 高橋等
- 外務大臣 - 椎名悦三郎
- 大蔵大臣 - 田中角栄(佐藤派)
- 文部大臣、科学技術庁長官 - 愛知揆一(佐藤派)
- 厚生大臣 - 神田博
- 農林大臣 - 赤城宗徳(川島派)
- 通商産業大臣 - 桜内義雄(河野派)
- 運輸大臣 - 松浦周太郎
- 郵政大臣 - 徳安実蔵
- 労働大臣 - 石田博英(三木派)
- 建設大臣、近畿圏整備長官、首都圏整備委員会委員長 - 小山長規

- 自治大臣、国家公安委員会委員長 - 吉武恵市
- 行政管理庁長官、北海道開発庁長官 - 増原恵吉
- 防衛庁長官 - 小泉純也
- 経済企画庁長官 - 高橋衛
- 国務大臣 - 河野一郎 (河野派)
- 内閣官房長官 - 鈴木善幸 (池田派)
- 総理府総務長官 - 臼井荘一
 - 内閣法制局長官 - 林修三
 - 内閣官房副長官(政務) - 斎藤邦吉 (1964年7月24日-)
 - 内閣官房副長官(事務) - 石岡実 (1964年7月28日-)
 - 総理府総務副長官 - 古屋亨

政務次官

- 法務政務次官 - 大坪保雄
- 外務政務次官 - 永田亮一
- 大蔵政務次官 - 鍛冶良作、鍋島直紹
- 文部政務次官 - 押谷富三
- 厚生政務次官 - 徳永正利
- 農林政務次官 - 館林三喜男、谷口慶吉
- 通商産業政務次官 - 岡崎英城、村上春蔵
- 運輸政務次官 - 大久保武雄
- 郵政政務次官 - 服部安司
- 労働政務次官 - 始関伊平
- 建設政務次官 - 白浜仁吉
- 自治政務次官 - 高橋禎一
- 行政管理政務次官 - 山本杉
- 北海道開発政務次官 - 大泉寛三
- 防衛政務次官 - 高橋清一郎
- 経済企画政務次官 - 伊東隆治
- 科学技術政務次官 - 瀬瀬弥三

外部リンク

- 首相官邸 - 第3次池田内閣改造内閣 (<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/60-1.html>)

「[http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第3次池田内閣_\(改造\)&oldid=45998632](http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第3次池田内閣_(改造)&oldid=45998632)」から取得
カテゴリ: 昭和時代戦後の内閣 | 日本の歴代内閣 | 1964年の日本

-
- **最終更新** 2013年1月28日 (月) 03:43 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
 - テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。

第1次佐藤内閣

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

第1次佐藤内閣 (だいいちじさとうないかく) は、佐藤栄作が第61代内閣総理大臣に任命され、1964年 (昭和39年) 11月9日から1965年 (昭和40年) 6月3日まで続いた日本の内閣である。

第1次佐藤内閣

内閣総理大臣	第61代 佐藤栄作
成立年月日	1964年 (昭和39年) 11月9日
終了年月日	1965年 (昭和40年) 6月3日

目次

- 1 概要
- 2 閣僚
- 3 政務次官
- 4 関連項目
- 5 外部リンク

概要

池田勇人 (内閣総理大臣 / 自由民主党総裁) の病気退陣により、前の第3次池田改造内閣が総辞職し、佐藤栄作が後継総理総裁に指名されて組閣した。閣僚は、内閣官房長官を鈴木善幸から佐藤派の橋本登美三郎に差し替えたほかは、前内閣のメンバーが再任した居抜き内閣となった。

通算7年8ヶ月続いた佐藤長期政権の始まりである。1965年 (昭和40年) 2月10日の衆議院予算委員会において社会党の岡田春夫が自衛隊の極秘研究である三矢研究を暴露し、国会は一時この問題をめぐって紛糾した。

閣僚

- 内閣総理大臣 - 佐藤栄作
- 法務大臣 - 高橋等
- 外務大臣 - 椎名悦三郎
- 大蔵大臣 - 田中角栄
- 文部大臣、科学技術庁長官 - 愛知揆一
- 厚生大臣 - 神田博
- 農林大臣 - 赤城宗徳
- 通商産業大臣 - 桜内義雄
- 運輸大臣 - 松浦周太郎
- 郵政大臣 - 徳安実蔵
- 労働大臣 - 石田博英
- 建設大臣、近畿圏整備長官、首都圏整備委員会委員長 - 小山長規
- 自治大臣、国家公安委員会委員長 - 吉武恵市
- 行政管理庁長官、北海道開発庁長官 - 増原恵吉
- 防衛庁長官 - 小泉純也
- 経済企画庁長官 - 高橋衛
- 国務大臣 - 河野一郎
- 内閣官房長官 - 橋本登美三郎
- 総理府総務長官 - 臼井莊一

- 内閣法制局長官 - 高辻正己
- 内閣官房副長官(政務) - 竹下登
- 内閣官房副長官(事務) - 石岡実
- 総理府総務副長官 - 古屋亨

政務次官

- 法務政務次官 - 大坪保雄
- 外務政務次官 - 永田亮一
- 大蔵政務次官 - 鍛冶良作、鍋島直紹
- 文部政務次官 - 押谷富三
- 厚生政務次官 - 徳永正利
- 農林政務次官 - 館林三喜男、谷口慶吉
- 通商産業政務次官 - 岡崎英城、村上春蔵
- 運輸政務次官 - 大久保武雄
- 郵政政務次官 - 服部安司
- 労働政務次官 - 始関伊平
- 建設政務次官 - 白浜仁吉
- 自治政務次官 - 高橋禎一
- 行政管理政務次官 - 山本杉
- 北海道開発政務次官 - 大泉寛三
- 防衛政務次官 - 高橋清一郎
- 経済企画政務次官 - 伊東隆治
- 科学技術政務次官 - 纈纈弥三

関連項目

- 居抜き内閣

外部リンク

- 首相官邸 - 第1次佐藤内閣 (<http://www.kantei.go.jp/jp/rekidai/kakuryo/61.html>)

「<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=第1次佐藤内閣&oldid=43939165>」から取得
カテゴリ: 昭和時代戦後の内閣 | 日本の歴代内閣 | 1964年の日本 | 1965年の日本

-
- 最終更新 2012年8月27日 (月) 10:52 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
 - テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。